



J C N A 通 信 第 33 号

発行日 2023.1.15
発行人 山口 郁乃
編集人 藤井 智恵美
創立 1957 (S32) 年

巻頭言 Please, Thank you, Sorry! で

第7代会長 山口郁乃

主イエスキリストのご降誕、2023年の到来、おめでとうございます。遅くなりました。
ウィルスが本部近くに来たため予定通りに運びませんでした。おゆるしく下さい。

みなさまはお元気ですか？

今、私は、この小さな群れが主イエスのみ心を行うために、会員が高齢化しようと退会者が続こうと「持ちこたえていること」こそが奇跡と感じます。

苦しいのはだれも同じ、今は祈りのうちに持ちこたえることが大切な時だと。

人々を分断するウィルスが蔓延してから3年たち、私たち医療従事者こそが仕事の特性上、互いに距離をとらざるを得ない過酷な時間が過ぎて、共に活動することができない毎日を重ねてきました。パソコンのような機器に頼る交流は、機器の所有と使いこなし、機器のご機嫌次第となり、自由ではない実感です。

では、どうする？ 過去通りでなく、新しい時代のあり方を試みましょう。支部研修会をハイブリッドで開催するというのも、オンラインだけでは伝わらない心を共に会場にあって分かち合うための試みです。不慣れによるもどかしさもありながら、一歩前へ、でした。みなさまの支援あつての開催でした。

次には総会だけでも対面で開催したいと思います。Please ,Thank you ,Sorry ! の精神で。新年に期待するのは平和。聖ヨハネ・パウロ 2 世教皇の広島平和アピールをぜひ読み返してください。

お知らせ 1 早春黙想会

2023年2月11日世界病者の日 10:00~12:00

指導は 大阪支部のおすすめ 藤原 昭神父様です ゆるりと過ごしましょう

Zoom ミーティングに参加する

<https://zoom.us/j/98120759554?pwd=UHVIZjBCQ3BuTE1GcENKeTVKQ1dBUT09>

ミーティング ID: 981 2075 9554

パスコード: 584719

みなさまご参加を！

お知らせ2

札幌支部会員お二人が 令和4年度に叙勲されました。

おめでとうございます！！

★中村敦子様 春に瑞宝単光章(看護業務功労)を受賞されました。

天使病院で長年看護部長として活躍され、看護協会にも貢献された功績が称えられました。

★近藤潤子様 秋に旭日中綬章(私学振興功労)を受賞されました。

長年にわたり天使大学学長、理事長として天使学園を導かれました。また、国内外の看護教育・助産師教育や看護団体の理事等の功績が称えられました。

各支部からのお便りは お喜びの分かち合いから始めましょう

札幌支部 前田明子様

札幌支部ではお二人の会員が令和4年度春と秋の叙勲で授章されました。春の叙勲では中村敦子さんが瑞宝単光章(看護業務功労)を受賞されました。中村敦子さんは長年、天使病院の看護部長として活躍され、また、看護協会にも貢献された功績を称えられました。

秋の叙勲では近藤潤子先生が旭日中綬章(私学振興功労)を受賞されました。近藤潤子先生は、長年にわたり天使大学学長、理事長として天使学園を導かれました。また、国内外の看護教育・助産師教育や看護団体の理事等の功績が称えられました。お二人の叙勲は私たちにとっても喜ばしいことでした。

コロナ禍のため集う事ができたのは2回でした。

7月16日、最初の集まりでは中村敦子さんに綬章お祝いの花束を贈呈しました。この日は支部総会を行い、神父様の勉強会で「秋田の聖母の年表」とミサを実施。CICIAMS 倫理ガイドラインを配布し継続勉強課題としました。また、2回目は12月17日、近藤先生に綬章お祝いの花束を贈呈しました。近藤先生からは「私のライフ・ストーリー」と題して講話をいただき、これまで歩まれた足跡に触れることができました。ミサとクリスマス会では、感染予防のため飲食はできず歌も歌えませんでした。プレゼントを交換し久しぶりの再会を喜びあいました。

札幌支部では新しい会員をお迎え出来た事も嬉しいニュースでした。コロナ禍ですが、会員同士できるだけ集う時間をもちたいと思います。

横浜支部 平田 初枝様

2022年11月23日 朝日新聞『ひととき』に掲載されました

幸せ運ぶ運転手さん

昨年から今年にかけ、同居する妹は股関節の手術などで入退院を繰り返した。

95歳の母も介護が必要だ。私は、妹の病院や母の家に行くのに、毎日のように路線バスを利用している。

シルバーパスのありがたさもさることながら、そこで出会う運転手さんから、いつも幸せを頂いている。

その方は、バスが発進するときも停車するときもガクンガクンしない。非常に乗り心地が快適だ。

そして「ありがとうございます」「降りる際は、バスが止まってからお立ち下さい」「トンネルに入ります。揺れますのでお気をつけ下さい」などと乗客に語りかけてくれる。その言葉のなんとも言えぬ優しいトーンに癒やされる。

乗客への心配り、運転技術の素晴らしさに、初めて出会った時には、思わず名前を見てしまった。

マスクをしているので顔ははっきり分からないが、声を聞いた途端、まるで宝くじにでも当たったかのようにうれしくなる。介護をしながら、心がくじけそうになることもあるが、この運転手さんのバスに乗るとほっこりした気持ちになれる。

いつも変わらぬ態度と声かけ。幸せを運ぶ運転手さんに、感謝です。

京都支部

西川 加之子様

この文章を書いている今サッカーのWカップの真最中。日本は残念ながらベスト16で今大会を終了した。それにしてもスポーツは良いものだ。

他国の者と世界共通のルールで戦い、ゲームが終了すると「ノーサイド」となり

敵味方の関係が無くなる。平和な光景だといつも見惚れてしまう。

しかし、このWカップ開催中にも、ウクライナでの戦争は続いている。

多くのメディアがサッカーの報道にスペースを割いているがこの厳しい冬に紛争地の事は忘れてはならない。

そして2023年のラグビーWカップが開催される時には、世界中が楽しめる大会となるように願っている。

高松支部

藤田 芙美緒様



高松支部会員は、現職(外来担当)2名とリタイア組2名の4名です。

コロナ禍で、集まることはできていません。

元気の源、シスター渡辺マツ子様は 御父のもとに呼ばれました…

大阪支部 井上 理恵子様

大阪支部長として、前任の Sr.川口百合子より昨年 12 月に交代いたしました、井上と申します。コロナ禍で支部としては活動できていなかったのですが、今後は Sr.川口百合子のご助言をいただきながら、コロナの感染状況をみつつ、少しでも活動することが出来ればと考えております。

そのためにも、会員数を増やすことが出来ればと思い、大阪教区の各教会の信徒である医療職の方々にもお声掛けが出来ればと考えております。

1 人では何もできないことも仲間がいれば知恵も集まり、一歩でも前進できることを私たちは日々の医療現場で確信しています。

このパンデミックなコロナ感染時代も 1 人ひとりの頑張りだけでは乗り越えられませんでした。チームとして、仲間たちがそれぞれの場所で頑張っていることを知っているからこそ、ここまで頑張ってくれました。

また、私たち医療者のために多くの方々が祈ってくださっています。神様の愛に包まれ、多くの方々に支えられ、私たちは生かされています。その使命を全うできますよう、これからも皆さまと共に歩んでいきたいと願っております。何卒宜しく願いいたします。

福岡支部 牧山 幸二様

福岡支部の例会は長いこと実施できていません。

例会が原因でコロナ陽性者が出たり、濃厚接触者になったりした場合の後の影響を考えると、どうしてもブレーキが掛かってしまいます。

世間では緩和の方向に向いているようですが、医療介護の現場に身を置く者にとっては、まだまだ警戒を緩めるわけにはいかない状況だと考えます。

そんな中、11 月 3 日に福岡カトリック神学院の神学院祭が、規模を縮小して 3 年振りに対面で行われ、要請により救護班として会員 3 名が参加しました。

これから少しずつでも活動ができるようになればと思います。

長崎支部 鶴巻 健二神父様

今回、岩崎神父様から長崎支部顧問を引き継ぎました。鶴巻健二神父です。

私は 10 年前に脳出血になり、今はリハビリの日々です。そんな私に今回、看護協会の顧問司祭をということを言われたとき、一番遠い仕事だと思いましたが、ある意味一番近いのかもしれない。この間中村長崎大司教様にこのことで報告しましたが大司教様からよろしくねと言われたので、これもまた神さまの導きとして頑張っていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

長崎支部では今回からズームで信徒の会員の方や今から洗礼を受ける方と分かち合いを始めました。「共に文む旅」という本を使いながら、始めています。この分かち合いを毎回楽しくしていきたいと思っています。

大分支部

阿南 幸子様

来春1月号の教区報に「コロナ渦とJCNA大分支部の活動」のテーマで寄稿しました。本年度より徐々に対面での活動ができるようになりました。その一歩として7月3日、大分教区スルピス森山信三司教様叙階式での救護活動でした。他教区から多くの関係者、信徒の方々が集合されましたので、打ち合わせを密にして会員協力のもと大きな事故もなく喜びのうちに無事終了しました。

今年度の活動目標を「医療にかかわる人々に癒しと、感染症の終息に向けて祈りで寄り添いましょう」を掲げ、例会では顧問司祭から解りやすく福音を学び祈り、わかち合いをしています。

今年度は宮崎・大分から各1名、若いナースの入会希望が有りうれしい次第です。

12月の黙想会例会はコロナ第8波の為残念ながら中止としましたが来春1月22日、司教様からカト看のために御ミサを立てていただきます。うれしいお恵みをいただいています。

ご報告です

2022年度、JCNAは、開催困難な全国大会に代えて、支部主催の研修会の対象を全国に広げ、その経費を一部支援する取り組みをしました。何とかして、会の目的である、学術向上、相互の親睦、保健医療福祉の進歩に貢献、の実現を図ろうとするものです。

今までのところ、開催できたのは広島支部と名古屋支部です。あと2か月、どこかの支部さん、頑張ってみられませんか？

1. 広島支部主催

2022年10月22日(土) 10:00~12:00

カトリック岩国教会聖堂を会場に、ハイブリットで行われました研修会です。

講演 “タンザニアにおける母子保健事業の報告”

講師 新福洋子氏 広島大学大学院教授 広島大学副学長

新福教授は2021年WHOが選んだ「世界の卓越した女性の看護師・助産師のリーダー100人」に選ばれたお一人です。42歳、ご家庭はご夫婦とお嬢様一人です。

会場では会員、顧問司祭のほかYMCA国際医療福祉専門学校の学生40名余が参加。

オンラインでは会員の他、こうのとりのゆりかご in 関西の人見理事長も参加されました。

ほんのボタン一つの接触ミスで音声記録が取れてなく、Youtubeにあげられませんでした…残念！

会費無料でしたが、ワンコイン献金を戴き、新福教授の事業に寄付しました。

広島支部から、研修会開催にあたってのご苦労や感想をいただいています。

- ❖ 山口会長が中国新聞(地方紙)で新福先生の記事を見た時に「こんな素晴らしい方が広島におられた、この方の話を聞きたい」と言う思いからこの研修会の計画が始まりました。

座長を引き受けた会員テレシアさんが直前に家庭の都合で不在となり、岩国教会信徒の佐々木洋子さんが会員になり、替わって引き受けてくださいました。

新福教授は「尊厳ある出産」のため、助産師修士課程設立、出産アプリ開発など弱い人に寄り添った生き方を語ってくれました。

聞いていた看護学生さんの心に「寄り添う心」の種を蒔くことができたと思います。

すべて神様の導きだと感謝し、午後のミサで終わった1日でした。(阿川昌子)

♡活動自粛が続く中、支部から何か発信したい、できることから、という会長さんの発案を支部会員は全員賛成しましたが、現実には場所、経費、技術など課題は次々に出てきました。それでも研修会が終わったときには充実感がありました。

神様が後押ししてくださった、実施してよかった研修会だと実感しました。

人見先生の参加も、つながっていると感じられる時間でした。何よりこれからの若い人に素晴らしい講師のお話を直接聞いてもらえたのが感謝です。(福島恵子)

2. 名古屋支部主催

2022年11月15日(火) 18:30~19:30

リモート方式: ZOOMでの開催

講演 ”大切ないのちを守り、未来に繋げるために ~東日本大震災から11年

講師 南原 摩利氏 一般社団法人 カリタス南相馬所長

南原さんは、「カリタス南相馬」所長として被災地に居住され、東日本大震災の被災地支援や福島県原発の被災地で、支援活動を続けておられる会員です。

名古屋支部から、研修会に参加しての支部の方の感想が寄せられています。

♣ 南原さんは現在カリタス南相馬の所長として勢力的に活動されていますが、南原さんが東日本大震災の直後から今日まで、現地で活動され、支援を続けておられる中で、感じておられること、復興の現状、離れたところに住んでいる我々がどのような形でお手伝いすべきか、というような内容を話してくださったと思います。

東日本大震災の被害は東北地方の広い地域でありましたが、その中でも福島県は地震と津波の被害だけでなく、原発事故という二重の被害を受けており、それによって長期の避難生活を強いられていること、それに伴う心のケアを必要とする方々が非常に多いことなど、震災から11年を経た現在でも被災者の方々に寄り添うことの重要性について話されたと思います。

また、ウクライナ紛争の影響を受けて、世界的なエネルギー危機が問題になっていますが、その中で原発の再稼働が行われようとしていることについても話され、福島の教訓が生かされていないこと、安全なエネルギーをいかに確保するかということ、地球規模で考えなければいけないということについても言及されました。

講演の後、本部の山口会長から「南原さん自身が現地に住んで活動をされていることがJCNAの心を示している」というお話があり、「寄り添」っておられる南原さんを激励され終了しました。

震災から11年以上たち、地震や水害など毎年のように大きな災害が起こり、東日本大震災の記憶が我々の意識の中から薄れてしまっていますが、原発事故による被害はその時だけでなく、子供たちや未来の人たちにも影響があるということを忘れないようにしなければと再確認した講演会でした。(鎌田 憲子)

本部からのお知らせ

1. JCNA 全国総会(支部長さん顧問司祭、本部役員の会議)を できれば、対面で、と構想しております。

なぜなら、会長選挙、新役員顔合わせの総会になるからです！

総会で新しい会長が決まるよう、真剣にご検討ください。

本部役員の副会長、会計も任期終了につき新しい会長が選任することになります。

総会の時期は 5月20日、27日あたりを考えておりますがいかがでしょうか？

2. 本部では、会員の帰属意識を高めるために「会員手帳の必要性」を感じ、 作成に取りかかっています。ご意見をいただければと思っております。

(毎年の会員カード作成は、不可能です、残念ながら)

大切なお願い

2023年の予算を組むため、収入を把握する必要があります。

各支部会計さんは1月末までに本部会費を振り込みお願いします。名簿を別送してください。

必ず支部名で振り込んでください。口座名のままではどの支部からかわかりません！

送金先は

ゆうちょ銀行からの場合 記号 15570 番号 26227971

ニホンカトリックカンゴキョウカイ

ほかの銀行からの振り込みの場合 店名 五五八(ごごはち)

店番 558

種目 普通

口座番号 2622797

編集後記

JCNA本部に温かなご支援をありがとうございます。

2023年も明けて、まだまだ先の見えないコロナ禍、医療現場は切迫、世界も日本の混迷の中において、雲がかかったような社会です。

今こそできることは何…祈り…

1日のうちで5分間、祈りに集中できる時間を思い、できる日もあれば、そうでない日もあり、でも何とか光を求めて自分の置かれた場所で、できることいねいに行っていくことと思っております。

JCNAの活動も、2023年度は会長選挙の年となります。

培ってきた歴史と今後刻まれていく歴史と、繋がっていければと思っております。

今後ともJCNAの活動をよろしく願いいたします。

2023.1.15 本部 書記 藤井智恵美

CICIAMS 現会長 Khosi 様からのクリスマスカード

昨年夏フィラデルフィアで開催された第 21 回世界大会の記念写真です



この大会に先立つ総会で、長年顧問をしてこられたナイルン神父様が引退されました。このため総会は、後任として JCNA 札幌支部顧問司祭ケン・スレイマン神父様を全会一致で指名しました。この選任には、立候補や推薦などではなく、ケン神父様も山口会長も出席していませんでした。主のみ旨としか言いようがありません。ケン神父様が役割を立派に果たされるよう祈りましょう。ケン神父様は 2 月 16 日からローマで開催される会議に出席される予定です。この会議では世界の会員の活動状況も各地域会長から報告されます。アジア会長マレーシアのフランチェスカ・マランティンさんは体調不良ながら出席の意向です。彼女の健康回復のためにお祈りください。



CICIAMS 次の世界総会は 2024 年 ケニア
世界大会は 2026 年 タイ

JCNA も世界大会に研究発表をもって参加できるように望みます。

みなさま、世界が平和になって

これらの集いが安心して開催できますよう祈りましょう！

JCNA 会長 山口郁乃